

第18回

生協組合員理事トップセミナーのご案内

日時: 2016/12/10(土)13:00開会～11(日)12:30閉会

会場: コープイン京都 締切: 10/28(金)

定員50名です。
お早めにお申
込みください。

ご参加のお誘い

4月に発生した熊本地震、8～9月は台風による東北や北海道など各地の豪雨水害など、相次ぐ自然災害に胸が痛みます。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

さて、生協組合員理事トップセミナーは、今年18回目を迎えます。昨年は「安心してらせる超高齢社会に向けた、生協の可能性と組合員理事の役割」をテーマに、地域のニーズ(困りごとや願い)に生協や組合員理事はどう向き合えばいいかを一緒に考え合いました。組合員のくらしに寄り添い、地域に様々なつながりを生み出していく先に、これからの生協のあり様があることを学びました。

生協はいつの時代も、組合員のくらしの声に向き合いながら発展し、歴史を刻んできました。私たち組合員理事もまた、直面する悩みは違ってもいつの時代も、「協同組合の価値とは?」「生協はどうあるべき?」「組合員理事って何だろう?」と、協同組合の原点を問い直しながら日々奮闘しています。

今年もセミナーを通して、多様化する現代社会に生協が存在する意義は何なのか、複雑化する諸課題にどう向き合い、協同すればより良い未来に繋がられるのかを考えたいと思います。

1日目は、「生協の未来を創造するために、私たち組合員理事が、考え、できること」をテーマに、非営利組織のマネジメントで有名なP.F.ドラッカーの自己評価手法を使って、「私たちが生協に関わっている意味」について一人ひとりが思いを出し合い、共有し、私たちはどんな未来を創造するのか、生協の可能性を自ら発見する場となればと考えます。

2日目は、毎年好評の講座を4つ設けます。「食と農をつなぐ」「地域経済と協同組合」「医療・社会保障改革」「生協と『消費者主権』」をテーマに、本研究所の研究者が講師を務めます。

オプションツアーは、伊藤若冲ゆかりの「相国寺」秋の特別拝観をメインに、同志社大学のフレンチレストランや京菓子司「俵屋吉富」でお茶席を堪能するよきばりな企画です。

本セミナーには毎回、全国の組合員理事が期待や想いを抱きながら集まり、共に悩み、考えることで、笑顔と勇気が生まれています。今年もこの2日間が、明日からの元気の一步につながることを願って、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



<呼びかけ人> 石井美登里(おおさかパルコープ) 小澤郁乃(コープしが)
川村幸子(京都生協) 柴田弘美(京都生協)
中野素子(ならコープ) 平光佐知子(コープあいち)
<主 催> くらしと協同の研究所 ※呼びかけ人は五十音順

くらしと協同の研究所

プログラム

12月10日(土) 13:00~18:40 + 懇親会 (12:30 受付開始)

- 13:00 開会あいさつ・オリエンテーション
13:20 <ワークショップ> 講師：若林靖永

「生協の未来を創造するために、私たち組合員理事が、考え、できること—ドロッカーの自己評価手法を使って—」

生協はそれぞれの地域で誕生してすでに数十年の時を経ています。これまでの歴史の中で生協がそれぞれの地域で役割を発揮してきたことをふまえつつ、新しい時代、未来にふさわしい生協のあり方を模索し、選択し、挑戦していくこと、これもまた組合員理事に問われているテーマであると思います。そして、日々の生協の活動等に誠実に取り組むとともに、過去をふりかえり、これからの未来を想像して、いまやるべきことを考えていくということは、私たちの日常の意味を変えることになります。

生協の未来は私たちが創造する、この思いをみなさんとともに本ワークショップを通じて具体化していけたらと思っています。

- 18:10 講評とまとめ
18:30 振り返り
19:00 夕食懇親会

12月11日(日) 8:40~12:30 + OP ツアー

- 8:40 <講座> 加賀美太記／青木美紗／高山一夫／杉本貴志
11:15 ミニ講座 (ワンポイント講演) 12:15 振り返り
12:25 閉会あいさつ 12:30 終了
12:45 オプショナルツアー (詳細別紙) 16:30 現地解散

11月上旬「事前課題」をお送りします。その取り組みから本セミナーは始まります(^^♪

講座テーマと趣旨

※申し込み時に講座をお選びください。

加賀美塾	●グローバル化と地域経済—事業者としての協同組合の役割 90年代半ば以降、日本でもグローバル化が本格的に進行し、大手メーカーが相次いで生産拠点を海外へと移転させました。企業の海外移転は国内の雇用や事業所を減少させ、大企業が本社を構える東京や大阪等の大都市圏を除いた、多くの地方が深刻な影響を受けています。 こうした中、地域で事業をおこない、地域で雇用と消費を生み出していく循環型の経済構造が注目されています。この構造において欠かさないのは、中小企業や地方行政、NPO、そして協同組合の「協同」であり、生協にも大きな期待が寄せられています。 この講座では、グローバル化が日本経済に与えた影響を学びつつ、地域循環型の経済構造とは何か、そこで協同組合には何が出来るのかについて考えてみたいと思います。
	●食卓と農の現場をつなぐ、生協らしい取り組みとは？ 日本には豊かな自然やその風土に合わせた食の生産方法、食文化、地域経済があります。しかし近年、外国産の輸入が増えたり、農産物の価格が下がるなど、さまざまな原因によって食の生産が危機的な状況にあります。生産者数は毎年減少しており後継者がおらず、耕作放棄地が増加し続けています。このままでは近い将来、日本から田園風景やおいしい食べ物が消滅してしまうかもしれません。 このような状況において、生協ではどのような活動ができるのでしょうか。生産現場の状況や実際に取り組まれている事例を紹介しつつ、参加者のみなさまと食と農について考えたいと思います。

高山塾	<p>● 医療・社会保障改革が暮らしに及ぼす影響とは</p> <p>日々の暮らしの中で、医療・社会保障についての報道に接しない日はないと思います。生涯を通じて病気やけがに見舞われない人はいませんし、自分や家族の老後に不安を感じない方もほとんどいないと思います。生協の組合員であれば、地域での暮らしという視点から、医療や福祉について考える機会も多いと思います。より大きな視点でながめると、2014年度の社会保障給付費は112兆円で、国内総生産のじつに23%を占めます。それらの費用は、主に社会保険料と公費負担で賄われており、国の財政政策とも深い関わりを有しています。それだけに、医療・社会保障制度の改革動向を学ぶことは、ひろく日本の政治や経済・社会の行く末を考えることにもつながります。本講座では、医療・社会保障を切り口に、地域で安心して暮らしを続けるための条件について、受講生と皆さんと一緒に考えたいと思います。</p>
	<p>● 生協は「消費者主権」を目指すべきなのか？</p> <p>多くの生協＝消費生活協同組合が消費者の生活防衛、権利向上を第一の目的として設立されたことは間違いありません。一般の小売業では十分に安心・安全な食物を買うことができなかつた時代、生協は消費者の頼みの綱、食生活を守る唯一の砦として大活躍しました。しかし、いまや小売業もそれなりに発展を遂げています。安心・安全で、しかも安価な食品が、スーパーの店頭でも相当程度手に入る状態になったいま、まだ生協にも出番はあるのでしょうか。一方では環境や資源、あるいは第三世界や国内の生産者の問題がますます深刻化する中で、消費者万能主義では問題を解決できないという声も高まっています。飽食の時代の先進国における消費者が南北問題や地球環境問題の一因にもなっているとしたら、生協には何ができるのでしょうか。消費者とコミュニティ、ステークホルダーの視点から、生協の新たな展開の道を考えてみましょう。</p>
杉本塾	

講師プロフィール

わかばやし やすなが

若林 靖永（京都大学大学院教授、本研究所常任理事・研究委員）

現在、京都大学経営管理大学院長。専門はマーケティング・流通・商業。研究テーマは、顧客志向のマーケティング組織、京都ブランドのマーケティング、商業・商店街活性化政策、非営利協同組織のマーケティングなど。

商品開発・管理学会会長、CIEC 監事、京都市伝統産業活性化推進審議会会長、教育のための TOC 日本支部理事長、京大生協理事長など。

主な著作は『顧客志向のマス・マーケティング』『現代生協論の探求』『2050年超高齢社会のコミュニティ構想』など。

8歳と3歳の男子と毎日遊んでいます（笑）

かがみ たいき

加賀美 太記（就実大学専任講師、本研究所研究委員）

専門はマーケティング・流通など。現在は、後発企業や協同組合のマーケティングを研究しています。今年から3年生向けの「協同組合論」を開講しました。講義をしてみて、生協をはじめ協同組合を学生たちはそもそも知らないんだ、ということを感じました。この夏、勤務先に新しく大学生協が設立されたこともあり、協同組合の理解を何とか学生に広げたいと考えています。

所属学会は日本流通学会、日本商業学会、日本協同組合学会など。近著に「格差社会の進展とマーケティングの変化」（『格差社会と現代流通』所収、2015年）等。

あおき みさ

青木 美紗（奈良女子大学助教、本研究所研究委員）

海外や日本での食や農業に関する調査、大阪府での農薬担当としての公務員経験を通して、日本の豊かな食文化を生み出した自然や社会を大事にしていきたいと思うようになりました。研究者としても生活者としてもまだまだ若輩者ですがよろしくお願ひします。

大学では「生活経済学」の講義を担当しています。『暮らしと協同』副編集長、奈良女子大学生協理事も務めています。

専門は、農業経済学など。所属学会は、地域農林経済学会、日本協同組合学会など。論文に「都市部の農協直売所を活用した農業振興事業が販売および生産に与える影響」「認証農産物の地産地消活動を通じた地域協同組合としての農協の役割」など。

たかやま かずお

高山 一夫 (京都橘大学教授、本研究所研究委員)

研究領域は日米の医療政策・医療産業、医療における非営利・協同。所属学会は、日本医療経済学会、政治経済学・経済史学会、社会政策学会など。おもな著書(共著)は、『社会保障の公私ミックス再論』『入門現代日本の経済政策』『健康と医療の公平に挑む』『日本の医療はどこへ行く』など。ワーク・ライフ・バランスの確立に向けて奮闘中。

すぎもと たかし

杉本 貴志 (関西大学教授、本研究所理事・研究委員)

協同組合論・生活協同組合論。くらしと協同の研究所『くらしと協同』編集長。本セミナーには、第2回から関わる。共著書に、『食と農の環境問題』(すいれん舎、2016年)、『協同組合 未来への選択』(日本経済評論社、2014年)、『協同組合を学ぶ』(日本経済評論社、2012年)、『生協は21世紀に生き残れるのか』(大月書店、2000年)など。共訳書に、J・バーチャル『国際協同組合運動』(家の光協会、1999年)、J・バーチャル『コープピープルズ・ビジネス』(大月書店、1997年)、『西暦2000年における協同組合「レイドロー報告」』(日本経済評論社、1989年)など。

募集要項

- 【募集人数】 50名 少人数での学びを重視した人数です。
- 【参加対象】 生協組合員理事(非常勤理事) 2日間とも参加可能な方に限ります。
- 【申込〆切】 10月28日(金) 先着順で定員に達し次第、締切らせていただきます。
- 【参加費】 ②③④は任意

①セミナー参加費	23,000円	一般(非会員)
	18,000円	本研究所の団体会員・個人会員
②懇親会費	5,000円	コープイン京都
③宿泊斡旋	11,000円	コープイン京都(シングル・朝食付)
④オプションツアー	4,200円	詳細別紙

【スケジュール】 10/28(金) 申込〆切→11/4(金) 事前課題発送→11/30(水) 事前課題〆切

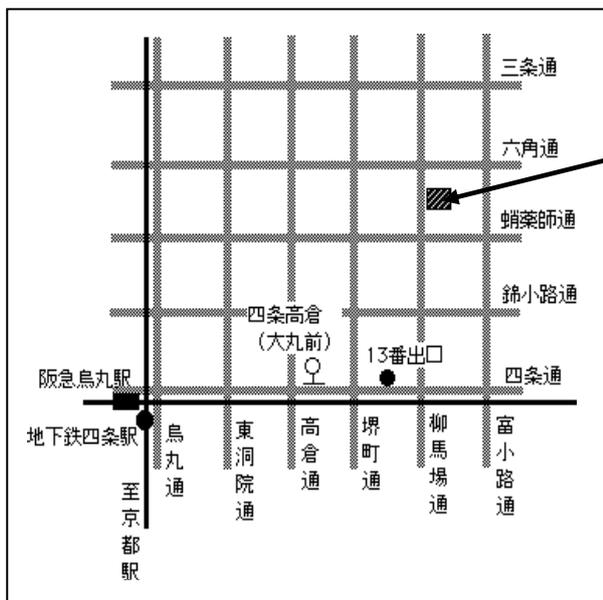
【お支払方法】 請求書をお送りしますので、指定口座にご入金ください。

【キャンセル】 事前課題の関係で追加募集できませんのでキャンセルのないようにお願いします。やむを得ずキャンセルの場合は次の料金を申し受けますことをご了承下さい。

- ・12/1~6⇒参加費20%、宿泊費10%、12/7~8⇒参加費、宿泊費とも20%
- ・前日~当日⇒参加費、懇親会費、宿泊費、OPツアー代とも100%

(注) 当日の緊急連絡は「コープイン京都」にお電話ください。研究所は不在でメールも見られません。

会場案内(コープイン京都)



<会場>コープイン京都

住所: 京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル
 電話: 075-256-6600
 最寄駅: 「地下鉄四條駅」もしくは、「阪急烏丸駅」より徒歩約13分。
 四條通地下道からは「13番出口」が近い。

<主催>くらしと協同の研究所

住所: 京都市中京区烏丸通二条上ル蒔絵屋町258
 コープ御所南ビル4F
 電話: 075-256-3335
 FAX: 075-211-5037
 E-mail: kki@ma1.seikyoku.ne.jp (ma1の1は数字)
 URL: <http://www.kurashitokyodo.jp>